

京都文化芸術プログラム 2020（仮称）の策定について

1 プログラム策定の背景

2019～2021年の3年間に、東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ、関西ワールドマスターズゲームズ等の、世界的スポーツイベントが日本（関西）で集中的に開催（＝国内外から多数の観光客が京都を訪問）

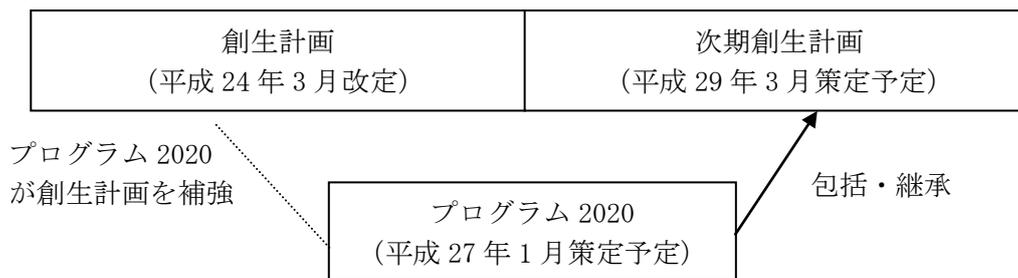


オリンピック等の盛り上がりを一過性のものとして終わらせないように、東京オリンピック・パラリンピック開催までの6年間のプロセスを大切に、世界の京都にふさわしい「文化首都・京都」として、文化芸術を国内外に発信するとともに次の世代に引き継いでいくことが重要である。

2 プログラムの創生計画における位置付け

プログラムは、京都文化芸術都市創生計画※（以下、創生計画）を補強し、東京オリンピック・パラリンピック等の開催決定を契機として強力に推進すべき具体的な事業内容をプログラムとして取りまとめる。

また、次期創生計画は29年3月に策定する予定をしており、関係施策については、プログラム2020の内容を包括し、継承する。



3 プログラムの主な目標

(1) 文化芸術の担い手育成

現在の、京都の子どもたちが、京都の芸術文化の担い手になるよう育成していくとともに、京都の文化を支える専門知識、技能を継承していく。

(2) 文化遺産の継承と活用

ユネスコの世界遺産や無形文化遺産をはじめとする、有形無形の文化遺産を、社会全体で守り、地域、観光、産業の活性化に活かす。

(3) 文化芸術、文化遺産の魅力発信

京都の芸術文化、文化遺産を次の世代に伝え、それらの魅力を世界に発信し、文化芸術都市としての魅力を高める。



例えば…

京都を訪れる方への真の「おもてなし」

- ・ 一般公開に向けた文化遺産の修理支援
- ・ 子どもたちが京都の文化を体験し、自らの言葉で語る 等

(裏面へ続く)

4 リーディング・プロジェクトとして実施する事業

プログラムの策定に先駆け、26年度から次の事業をリーディング・プロジェクトとして実施する。

(1) 未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業

世界文化遺産「古都京都の文化財」登録20周年の節目を迎えることを契機に、平成26年度～平成31年度（オリンピック開催の前年）の6箇年計画により、市指定・登録文化財建造物等を対象として、一般公開に向けた修理を集中的に行う。

(2) 伝統文化体験の日（仮称）

大学生などの若者を対象として、茶道、華道など伝統文化の体験ができる事業を実施し、伝統文化に触れる機会を提供する。

<平成26年度予算額：50,000千円>

項目	予算額(千円)
京都文化芸術プログラム2020（仮称）の策定およびリーディング事業の実施 ※「伝統文化体験の日（仮称）」以外のリーディング事業は今後検討	20,000
未来へつなぐ歴史的建造物計画的修理事業	30,000
合計	50,000